

「ジェイアール労働組合」の結成に対する糾弾声明

6月21日、JR東労組に対する組織破壊集団「JR東労組をよくする会」の首謀者らが、「ジェイアール労働組合」なる組織を旗揚げした。この組織はJR東労組を除名になった者たちが中心となってわずか50名で発足させたと言われている。

この組織を発足させた組織破壊者たちは、「結成宣言」で「JR労働運動の中で言論の自由と民主主義を守らなければならないとの一念からジェイアール労働組合を結成した」「2003年に中央本部が打ち出した『1・23見解』は、松崎前顧問を『創始者』と崇め、JR東労組の目的を松崎前顧問を守ることに歪曲した」「圧倒的多数の組合員は革マル派とは全く無縁な真面目な鉄道労働者である。その組合員を『彼らの呪縛から解き放さなければならない』との決意を打ち固めた。」とうそぶいている。結成宣言で明らかのように、首謀者らは政府・公安当局の描く筋書きに基づきJR総連・JR東労組を破壊することを宣言したのである。

首謀者よ！！

2002年、組織破壊者に対するJR東日本会社の優遇人事問題に対する姿勢を巡る松崎前顧問からの厳しい指摘から逃亡したのは誰だ！！

「えん罪JR浦和電車区事件」大弾圧の前日に本部役員を辞任し逃亡したのは誰だ！！

我々は、344日間の不当勾留を強いられた美世志会の7人を中心に「えん罪JR浦和電車区事件」「住居不法侵入」「東京駅暴力事件」「業務上横領事件」の数々のでっち上げ「国策捜査」をはねのけてきた。しかし、この闘いに一貫して敵対してきた首謀者たちは2006年夏に「JR東労組をよくする会」なる組織を外部の者らと立ち上げ、あろう事か『週刊現代』による「テロリストキャンペーン」に実名で登場し、権力・JR連合と一体となって「横領キャンペーン」「革マルキャンペーン」の担い手に成り下り、四位一体の攻撃の手先となった。そして組合員からの厳しい批判に追い詰められ、「ジェイアール労働組合」を結成したのである。

「ジェイアール労働組合」は、首都圏の者だけでなく、全国でのきな臭い動きと連動している。事実彼らの長野における同調者は、6月17日にはJR連合傘下のJR東日本ユニオンと共催で集会を開催し、『マングローブ』なる書籍を発刊した西岡研介の講演を受けているのだ。さらには、昨年JR総連から脱退を表明し、JR総連第23回定期大会で除名になった九州ユニオンと連携するともささやかれている。行き着く先はJR連合との合流であり、養殖・御用組織との結託である。もはや背後に蠢く権力に操られ、JR連合と野合する姿は、何とも哀れとしか言いようがない。

JR総連は、公安当局の御用組合＝「ジェイアール労働組合」を利用したあらゆるJR総連・JR東労組破壊攻撃を粉碎する。そして今後も一層の団結を基礎に、真の国鉄改革の完遂に向け雄々しく前進することを、ここに明らかにする。

2007年6月28日

全日本鉄道労働組合総連合会
第2回執行委員会